

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 東小 学校 学級数 7

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

よく考え 共に学ぶ子（考える子）

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1) 取組のきっかけ

本校では校内研修において、一昨年・昨年と「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」に取り組んできた。その結果、簡単な英会話に慣れ、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度も見られてきた。

しかしながら、本校においては、学力調査等の結果からも、表現する方法や表現に必要な基礎学力の定着が不十分なために、他教科等へ活用が充分にできていない。そこで今年度の校内研修を「基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、考えを伝え合える子どもの育成」を主題に進めている。

2) 取組の位置付け

教務（研究）が中心となり、具体的な研修計画・内容を決め研修を進めている。

3) 取組の方法

*特に学力の落ち込みが大きい算数科で進める

<めざす子ども像>

○基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけている子

○身につけた力で自力解決する子

○自分の考えを伝え、考えを深め合える子

<研修の方針>

(1) 各学年の「基礎的基本的な知識技能」が身につくような算数的活動を充実する。

(2) 子どもが表現する場を設定し「伝え合う」ことを意識した学習展開を図る。

(3) 児童理解を図る際に学級集団・小集団などあらゆる場面の集団を視野に入れ学習集団を作っていく。

(4) 研究主題の共通理解を図り、日常実践と校内研究の一体化を図る。

<研究内容>

(1) 子どもたちに身につけさせる基礎的・基本的な知識・技能を共通理解を図り、それらを確実に身につけさせる学習指導を工夫・展開する。

(2) 「伝え合う」授業のあり方と子どもの見取りの工夫を検討する。

(3) 適切な評価方法と児童への伝達の方法

取組の成果と課題等

○ 取組の成果と課題

- (1) 子どもたちに身に付けさせる基礎的・基本的な知識・技能の共通理解を図り、それらを確実に身に付けさせる学習方法を工夫、展開する。
 - ・課題解決的な学習のしかたを取り入れ、「既習事項を基にした予想→解決への見通し→個人での思考→伝え合いによる確認→実践での定着」というサイクルをいかす授業を工夫した。
 - ・ノート指導，ワークシートでのまとめ，掲示物などで前時までの学習の跡を残すことで，既習事項を基に本時の授業を展開することが出来た。
 - ・その授業の中での身に付けさせたい力をもっと焦点化することで，確実な定着を図る。
 - ・ワークシートは目的や意図を明確にし，更に効果的な使い方を検討する。
 - ・算数科は積み重ねの学習なので，数と計算・量と測定・図形・数量関係それぞれの領域できちんと理解が出来ていると，それが次の学習の基になる。ただ計算が出来るのではなく，その計算のしかたを学び，一般化できる知識技能を身に付けさせたい。
- (2) 「伝え合う」授業のあり方と子どもの見取りの工夫を検討する。
 - ・個人思考，ペア・班・全体での話し合いを効果的・計画的に取り入れることで，子どもたちは自分の考え方を確かめ，全体にひろげることができた。
 - ・子どもたちに話し合いのポイントを指示することで，目的を持った話し合いができるようになって来た。話し合いの仕方や手順をさらに定着させるようにする。
- (3) 適切な評価方法と児童への伝達方法
 - ・研究の成果として基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているのか，またそれを活用する力があるかの実態把握と，それを踏まえた授業実践の再検証をし，次年度の研究へつなげる。

○ 教育課程検証の方法

- ・H24全国学力・学習状況調査の結果から得られた客観データとCRTを利用した児童の実態把握，およびそれに基づく学力向上プランの作成
- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるための時数の確保
- ・年間指導計画の見直し
- ・家庭学習の実態についての把握と学習の連続性を意識した実践
- ・朝学習の効果的な実践についての再検討